

平成 30 年度 取組実践検証校の取組について

1. 主な取組内容（全校共通）

○ ミーティング、ヒアリングシートの記入

働き方改革が必要な理由、他校の事例、取り組む上でのポイントについて、説明。

○ ワークショップ

参加者をグループ分けし、各班で「自分の学校の良いところ、素晴らしいところ」「自分の学校のもったいないところ」などを付箋に書き出し、整理した上で、ゴールイメージを共有。

ゴールイメージと現状とのギャップを課題として捉え、その課題を解決するためのアイデア出しを行い、業務改善計画案の作成に向け、優先順位をつけて実施時期を話し合った。

2. 課題の抽出に関する教員の発言（ヒアリング・ワークショップ等）

<教員として、理想の働き方は何か>

- ・授業力向上の時間や生徒と関わる時間が確保できる。
- ・やりがいや充実感をもって働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域などにおいても楽しく物事を進めていく。
- ・毎日十分に休めるよう、17～18 時に帰れるのが理想。自分の時間（家事・趣味）をとらないと、自己肯定感が減っていく。
- ・生徒と接する時間や教材研究の時間が十分に確保され、残業なく勤務できること。
- ・学校の方針を明確にし、全教員がそこに向かって明るく楽しく努力していける。
- ・子どもたちの成長が実感できることが、教員のやる気につながる。

<教員の多忙化について課題だと思うこと>

- ・これをやるといいというものほとんど来ないが、これをやめるといいというものは出てこない。業務の取捨選択。思い切って捨てる覚悟。
- ・計画性が低い時や時間をかけてやりたいこだわりが強い時に多忙化するように感じる。
- ・社会、地域、保護者、生徒から期待されることが量、質ともに大きく高くなっている。それに応えようとすると、同じ仕事でもより時間がかかる。
- ・勤務時間外に行われている部活動指導の時間が多く、家族との時間を犠牲にしているように思われる。教員自身は満足しているかもしれないが、家族はどう感じているのか。
- ・教員の本分は教科指導を核とすべき。部活動は学校と切り離し、地域などでやるべき。
- ・残業代が出ないので、「やった方が良く」「生徒のため」という言葉でやっている。

- ・特別指導になると休日に家庭訪問をする等、働き方にルールがない。
- ・「生徒のため」と長時間労働を無理強いされる場面が多い。
- ・「生徒のために」と思うと、自分からどんどん仕事を増やしてしまう。
- ・仕事の偏りが多く、教員間での業務の平準化が難しい。
- ・規模の小さな学校は複数の役割が個人に重なり、多忙化につながる。一人の教員が出席すべき会議や研修も多く、業務の遅れにつながり、在校時間が増える一因になっているのではないか。
- ・業務の優先順位。効果が上がっていないことも継続的に行っている。
- ・教員一人一人が単に「～ねばならない」と思っている業務が多々あると思う。「例年にならって…」という感じになってしまっているような気がする。
- ・やろうと思えば際限なくできてしまう仕事に対して、自分がどこまでやるのか勤務時間とのバランスを考えていくことが課題。

<理想の働き方を実現するために何が必要か>

- ・目の前の生徒も大切だが、自分自身や家族のことも考えて働くよう、意識改革が必要。
- ・経験年数やスキルに応じた賃金体系と職務の割り振りを行う。
- ・部活動は日本の学校教育において重要だと強く思うが、教員ではなく別の人材が指導するシステムが可能であれば、今以上に教員がゆとりをもって授業や学級運営に向かうことができる。
- ・この仕事は誰のためのものかを考えて、仕事の内容（やめるべきもの）を選ぶ。
- ・職場のコミュニケーションをしっかりとる必要がある。
- ・教員自身の体と心の健康が大切。ワークライフバランスを考えて教員一人一人が生活していけると良い。
- ・働く時、休む時のメリハリをつけ、短時間でも効率よく仕事を進められるようにする。

業務改善推進計画（案）の概要（平成31年2月現在）

1. 東浦町立東浦中学校における取組

<ゴールイメージ>

「フォロー、バックアップができる良さを最大限に生かし、アイデア出しして、もっと効率的にしてお家へみんなで帰りましょう」

<課題・アクション>

課題A「声を掛け合い、トラブルをみんなで解決する」

- ・教頭や学年主任から声掛けを励行
- ・各種行事や成績処理、懇談会等の時期は特に留意

課題B「仕事の見える化を行い、お互いに関心を持つ」

- ・学年ボードに個人の業務状況を記入、見える化

課題C「一か月の在校時間の上限を定める」

- ・年間計画作成時に業務の繁閑を考慮

課題D「諸帳簿や指導案の改善を行う」

- ・指導案の様式や月末諸帳簿の簡素化

課題E「会議・調査のさらなる精選を行う」

- ・会議時間を1時間以内に設定
- ・会議資料に変更点を明示するなどの工夫
- ・会議等の開催日は清掃活動をやめて時間を確保

課題F「会議資料や引継資料をすべてデータ化する」

- ・職員会議等の資料をすべてデータ化し、共有フォルダで管理、共有

課題G「テストのアイデア化」

- ・テスト問題のデータを共有フォルダで管理、共有
- ・定期考査は5教科（国数英社理）実施とし、実技4教科は単元テストや技能テストで評価
- ・長期休業後の課題テストは市販の教材を活用

2. 県立碧南高校における取組

<ゴールイメージ>

「温かいチームワークを活かして、学び合い、助け合うことで業務の平準化を進めていく」

<課題・アクション>

課題A コミュニケーション

- ・あいさつ運動や雑談を通じて本音が言える雰囲気づくり
- ・プチ茶話会の開催
- ・職員間のコミュニケーションにおいて感情的にならない

課題B 時間の有効活用

- ・早く帰れる日は割り切って退校
- ・留守番電話の設置
- ・メモを多く取ることで仕事を整理
- ・印刷物の削減

課題C 仕事の平準化

- ・業務内容、行事の見直し
- ・副担任の教員へ仕事を割振り
- ・協働体制の確立、組織の再編

3. 県立刈谷工業高校における取組

<課題・アクション>

○プロジェクタの各教室への設置

- ・教材の共有化
- ・外部コンテンツの利活用

○勤務時間の割振変更制度の積極的な活用の推進

- ・割振変更制度の活用により、在校時間の減少を図る
- ・制度や対象業務を教職員に周知

○検定の外部委託

- ・外部委託可能な検定を洗い出し、委託を検討

4. 県立一宮聾学校における取組

<ゴールイメージ>

- ・行事の精選や業務の効率化により、子どもたちと関わる時間、教材研究の時間を現状よりも多く生み出す。
- ・社会自立を目指し、学校全体で子どもを伸ばす。

<課題・アクション>

○校務分掌のデータの保存方法の統一

- ・校務分掌内の分掌事項の精査及び保存方法の検討
- ・業務分担を明確化し、重複事項は簡略化
- ・個々の事務処理能力を考慮し、業務の偏りを見直し
- ・提出時期の一覧を作成するなど、引継ぎを効率的に実施

○教材データの有効活用

- ・教材の各データを全校共通の方法で保存
- ・現存するデータを各部、各教科に分類
- ・効果的なデータの保存方法を検討

○一貫校として系統性のある行事の実施

- ・子どもたちの自立と社会参加に向けた効果的な行事等の実施
- ・学びの連続性、系統性を検討
- ・行事の実施時期や回数を見直し
- ・保護者の適切な関わりの検討

在校時間記録における平成29年度と平成30年度の比較

1 東浦町立東浦中学校

区分	平成30年度	平成29年度	増減
	11月	11月	
100時間以上	1	6	△ 5
80時間以上100時間未満	7	11	△ 4
60時間以上80時間未満	20	14	6
40時間以上60時間未満	9	8	1
20時間以上40時間未満	8	5	3
0時間以上20時間未満	2	2	0
合計	47	46	1
(うち80時間以上)	8	17	△ 9

2 県立碧南高等学校

区分	平成30年度	平成29年度	増減
	1か月あたり平均(4月～1月)	1か月あたり平均(4月～1月)	
100時間以上	0	0	0
80時間以上100時間未満	1	2	△ 1
60時間以上80時間未満	10	6	4
40時間以上60時間未満	19	24	△ 5
20時間以上40時間未満	18	15	3
0時間以上20時間未満	15	17	△ 2
合計	63	64	△ 1
(うち80時間以上)	1	2	△ 1

3 県立刈谷工業高等学校

区分	平成30年度	平成29年度	増減
	1か月あたり平均(4月～1月)	1か月あたり平均(4月～1月)	
100時間以上	2	1	1
80時間以上100時間未満	1	6	△ 5
60時間以上80時間未満	12	9	3
40時間以上60時間未満	13	17	△ 4
20時間以上40時間未満	17	19	△ 2
0時間以上20時間未満	25	17	8
合計	70	69	1
(うち80時間以上)	3	7	△ 4

4 県立一宮壘学校

区分	平成30年度	平成29年度	増減
	1か月あたり平均(4月～1月)	1か月あたり平均(4月～1月)	
100時間以上	0	0	0
80時間以上100時間未満	0	1	△ 1
60時間以上80時間未満	5	7	△ 2
40時間以上60時間未満	19	21	△ 2
20時間以上40時間未満	22	26	△ 4
0時間以上20時間未満	19	12	7
合計	65	67	△ 2
(うち80時間以上)	0	1	△ 1